

## 地域貢献活動

### ハリケーン・サンディ被災者を支援

2012年10月下旬、米北東部を襲ったハリケーン・サンディは、多数の死者と甚大な被害をもたらしました。

米国のグループ各社は被災者支援に乗り出しました。被災した社員への支援にとどまらず、従業員からも募金を募り、赤十字社に寄付しました。寄付総額は各社からのマッチングも含めて合計6,112ドル(約55万円)にのびりました。

### シンガポールでクリスマスの慈善活動

2012年12月21日、日東電工アジアテクニカルセンターとゼンソリアムの従業員は2組に分かれて、リー・アー・モイ老人ホームと国立腎臓財団が運営する透析センターを訪問し、クリスマスプレゼントや音楽、ゲームで患者さんを楽しませたり、看護師のお手伝いをしました。

訪問が終わると、参加した社員はお互いの訪問の様子を語り合い、この2つの施設のために募金を行いました。



歌と演奏を披露する従業員

### バージニアの高校へ不要になった梱包材を寄付

日東電工オートモーティブ・バージニアは、2012年10月27日、不要になった梱包材をケンプスビル高校に寄付しました。これをクッション材としてアメリカンフットボール競技場のゴールポストに巻き付け、選手がけがをしないようにする

のです。

同社が行っている、産業廃棄物を減らすリサイクル活動にも一役買っています。



梱包材を巻き付けたゴールポスト

### フィリピンにボランティア文化を醸成

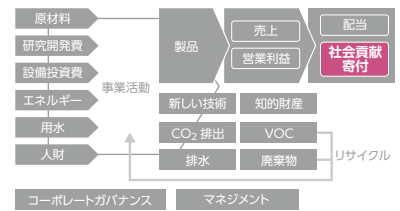
フィリピンは世界で最も災害の起こりやすい国のひとつです。命を救うためにボランティア文化を築くというフィリピン赤十字社の取り組みに賛同して、日東電工フィリピンは、2013年2月10に行われた「ミリオン・ボランティア・ラン2」に参加しました。参加費など全ての収益金は、同赤十字社が進めているボランティア・プログラムに充てられます。

現在、日東電工フィリピンでは従業員3名が、災害時に応急手当や救命措置を行うボランティアとして、赤十字社から認定されています。

### 「チャレンジコンテスト」豊橋地区大会の会場を提供

日東電工豊橋事業所は豊橋少年少女発明クラブを支援しており、毎年、従業員が夏休み特別授業の講師を務めています。

このクラブの依頼に応じて、第3回全国少年少女チャレンジ創造コンテストの地区大会会場として、2012年9月1日に同事業所の体育館を提供しました。今大会の課題はモー



ターとゴムで動くハイブリッドミニカー。各チームがアイデアを結集して、速さとデザインを競いました。

豊橋の地区大会で選抜されたチームは、その後の全国大会で、見事「銀賞」を受賞しました。



ミニカーを走行させる子供たち

### タイ洪水被害への義援金に アユタヤ赤十字社からお礼状

2012年10月25日、タイの赤十字社アユタヤ支部より、タイ洪水被害に寄せた義援金の使用用途報告とお礼状が届きました。当社が寄付した2,500万円(約1,000万バーツ)は、自宅を失った人への住宅建設、被災住宅の修繕、小学校の図書館復旧と図書購入などに役立てられたとのことでした。



義援金で復旧した図書館と住宅

## 教育振興・国際交流

### 海外インターンシップ生の受け入れ

日東電工はさらなる人財の多様化を目指し、海外からもインターンシップ生を受け入れています。

2012年5月から8月末にかけて、タイと米国の大学から2名の学生が、日東電工茨木事業所で就業体験をしました。約2か月余りの期間中、それぞれが得意分野を活かした研究を行いました。今回のインターンシップを通じて、利益を得られるものを創り出すという意識が高まったようです。

### 「こころざし深谷科学塾」の子供たちが 関東事業所を訪問

2012年8月24日、44名の小中学生が日東電工関東事業所を訪問しました。子供たちに科学技術に興味を持ってもらおうと、深谷市が企画した「こころざし深谷科学塾」で工場見学にやってきましたのです。

子供たちは実験やクイズを通して先端科学に触れ、「もっと科学が好きになりました」との感想も聞かれました。



熱心に説明を聞く子どもたち

スポーツ支援活動

第32回大阪国際女子マラソン



スタート

写真提供:産経新聞社

2013年1月27日、「チャレンジする人を応援します」をコンセプトに、9年目となる今年も大阪国際女子マラソンに協賛しました。日東電工グループからは約2,300人が来場し、685人がボランティアとして参加。会場周辺の清掃やランナーへのテーピングサービスなどを行いました。

今年も「大阪エンジョイRUN」に協賛。大人から子供まで、1,530人が3.2kmのジョギングを楽しみました。また、日東電工賞として、クイズ当選者から抽選で東北の特産品などを提供しました。



大阪エンジョイRUN



大阪ハーフマラソンの  
タオルかけボランティア

アイデアコンテスト

昨年に引き続き、大阪国際女子マラソンの連動企画「広がる未来! 第2回アイデアコンテスト」を実施しました。私たちの暮らしを便利でより豊かにする自由なアイデアを募集し、754件もの応募がありました。最優秀賞は人や物に触れると気持ちができる「気持手ぶくろ」でした。

また、昨年のアイデアコンテストで最優秀賞を受賞した「にここに発電所」をイメージしたデモ機を、当社の製品を使って作製し、イベント会場に展示しました。



アイデアコンテスト  
表彰式



「にここに発電」  
デモ機

チャレンジ100万歩

大阪国際女子マラソン当日までの100日間で、100万歩歩くことを目標にしたイベントです。昨年に引き続き、東日本大震災の被災地支援として、参加者が歩いた総距離数約32万Kmに合わせて、石油ストーブなど35万円相当の支援物資を仙台津波復興支援センターへ送りました。

